

2025 年度企業法務インターンシップ報告

2025 年度企業法務インターンシップには本学学生 24 名が参加し、国際企業法務協会 (INCA) 会員企業である下記 13 社のご協力により実施されました。

1. LegalOn Technologies 株式会社
2. ダノンジャパン株式会社
3. 花王株式会社
4. サントリーホールディングス株式会社
5. アデコ株式会社
6. 株式会社日本製鋼所
7. ユニリーバ・ジャパン株式会社
8. GMO インターネット株式会社
9. ルイ・ヴィトン ジャパン株式会社
10. 株式会社レスター
11. 株式会社ニトリホールディングス
12. 株式会社竹内製作所
13. 日本航空株式会社

インターンシップ報告書

1. 派遣先企業: 株式会社ニトリホールディングス 法学部4年

本インターンシップを通じて、企業法務の役割と実務の広がり体系的に理解する大きな機会となった。まず、ガバナンス、リーガル、知財、コンプライアンスといった多様な領域を横断的に学んだことで、企業が日々の業務の中でどのようにリスクを管理し、組織としての健全性を維持しているのかを具体的に把握できた。法務の仕事は「問題が起きてから対処する部署」ではなく、「問題が起きないように仕組みを設計する部署」であるという説明は特に印象に残った。

また、CLM(Contract Lifecycle Management)の調査および内部向けプレゼン資料の作成を通じて、企業規模が大きくなるほど契約や情報が複雑化し、それらを効率的に統合・管理する仕組みがどれほど重要かを実感した。自ら課題を整理し、社員の方々へ説明するという一連のプロセスは、法令知識だけでなく「現場を理解したうえで問題を抽出し、改善案を提示する力」が求められることを学ぶ貴重な経験となった。

加えて、個別面談では、今後のキャリア形成に関する実務的かつ率直なアドバイスを頂いた。「いろいろ体験してから決めるのは悪くない。しかし、一度目標を定めたら最後までやり遂げる力が大切」という言葉は、自分の進路に迷うことの多かった私にとって大きな示唆となった。経験を重ねながら自分の興味や強みを見極め、キャリアの軸を形成していくことの重要性を改めて認識した。

面談ではさらに、「責任の取り方」について深く考えさせられた。例えば会議を主催するのであれば、参加者全員が忙しい中で時間を割いている以上、議題を事前に整理し、論点を絞り、効率的に議論を進める準備をすることが当然の責任である。これは単なる業務管理ではなく、組織に対する姿勢そのものだと感じた。また、「議長を社内取締役が務めるべき理由」として、社内の人ほど事業の背景や組織の事情を理解しており、当事者意識と責任感が全く違うという点も非常に納得のいく指摘であった。企業法務の視点から見ると、責任の所在が明確であることは意思決定の質を左右する重要な要素であると学んだ。

以上の経験を踏まえ、今後の目標として、①契約法・会社法など基盤となる法分野の専門性向上、②責任ある業務遂行のための段取り力や資料作成力の強化、③多様な経験を通じて自分の強みを言語化し、キャリアの軸を育てていくこと、の三点を掲げたい。今回のインターンシップで得た学びは、大学院進学や予備試験の勉強だけでなく、今後のキャリア選択や仕事観にも大きな影響を与える重要な財産となった。

2. 派遣先企業: LegalOn Technologies

法学部 3 年

LegalOn Technologies でのインターンシップを通じて、法務部で働くことの解像度が上がり、今後さらに法律を学習するうえでのモチベーションが高まったと感じる。

法務の役割は、単にリスクを指摘し事業を守るだけではない。LegalOn Technologies はソフト開発の会社であるが、開発の会議への同席で、法務部員が自社製品の最初のユーザーとして UI 等にフィードバックを行う姿を見て、事業と共に価値を創出するパートナーとしての役割がよりはっきりと分かった。また、リーガルテック事業の核となる価値は、AI による業務効率化で、法務担当者をより創造的な業務へシフトさせる点にあると学んだ。その一方で、この事業は常に非弁行為(弁護士法 72 条)の問題と向き合っており、2 日目にグレーゾーン解消制度の活用について学んだことは、新規事業と現行法との関係性を知る上で非常に有意義であった。さらに最終日には、既存のルールに従うだけでなく、省庁に働きかけガイドライン作成に関与する政策企画の役割を知り、ビジネスのために社会のルール自体を創っていくという、法務の側面にも衝撃を受けた。4 日目に行った契約書レビュー実務では、今までの学習と実務が明確に結びついた瞬間であった。一方的な NDA を、公平な内容に修正する課題において、大学で学んだ民法や会社法の知識が、ビジネスの現場でいかに武器として使われるかを具体的に体験できた。

私はこれまで、弁護士資格取得後に法律事務所へ進むか、企業内法務(インハウス)へ進むかで悩んでいた。今回のインターンでは、5 日間で両方のキャリアを経験された様々な方から、それぞれのメリット・デメリットについて具体的なお話を伺うことができた。その上で、事后面談においては、「まずは法律事務所での専門性を高め、その後でインハウスというキャリアを考えるのも良いのでは」という、自身のキャリアを考える上で非常に参考となるアドバイスをいただいた。

さらに、今後は、アドバイスいただいたように答えのない問いを考え抜く練習や視野を広げるような学習も意識的に実践していきたい。法律の勉強だけに留まらず、IT 技術の動向や、その他の関心のある分野の知識も積極的に取り入れ、多角的な視点から物事を考えられる法律家を目指したい。